

「でも私たちならきっと大丈夫です。」

74 期生への感謝と別れの言葉を述べて、今年度の Inews+ を閉じます。

卒業式において、74 期生一人一人が凛々しい姿で入場し、高校生活の思い出とともに卒業の時を待ちます。何気ない日常で得た友人との大切な思い出を胸に「ありがとう」と、心に抱く。3 年間の生活を終え、あなたたちは今何を思うのか。答辞及び送辞は本来、卒業式でしか聞けないものですが、特別にここに載せたいと思います。

答辞

厳しかった冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じられる季節となりました。この良き日に卒業式を迎えられたこと、大変うれしく思います。

思い返せば、生野高校での三年間は本当にいろんなことがありました。入学式の日、ぶかぶかのブレザーに身を包んだ私たちは不安と期待を胸にこの生野高校に入学しました。勉強についていけるか、友達はあるか、といった不安は誰しもが抱いていたことでしょう。中学までとは違う環境、地元の友達と離れ孤独を感じることもありました。

そんな中で迎えた四月の遠足。クラスメイトとバーベキューで楽しい時間を過ごすうちに入学の頃の不安は無くなっていきました。他にも体育祭や文化祭、合唱コンクールなどの学校行事に全力を尽くし、部活動では先輩の背中を必死に追いかけて、同級生とのつながりを深め合いながら、生野高校の生活になじんでいきました。みんなで昼食をとり、くだらないことで笑い合い、小テストで毎度のように至誠ホールに通い続ける。そんな日々があと二年続くのかと思っていました。しかし、高校生活最大のターニングポイントは突然やってきました。三ヶ月間、学校が私たちの生活から姿を消しました。友達に会いたいの会えない。勉強にもいまひとつ集中できない。そんな中実感なく二年生になり、ようやく登校できたと思えば、久しぶりに入った教室には机に対して半分の人数がいるだけでした。ほとんどが初対面、しかも顔の半分は見えません。当然部活ありません。「なんでこんなことに…。」前例のない出来事への大きな不安とぶつけようのない怒りで投げやりな気持ちになってしまうことも何度かありました。ようやく、新たな生活様式の下、新クラス全員で顔を合わせて、最低限のことができる状態に戻りました。残念ながら文化祭は中止。様々な制限がありましたが、体育祭は実施でき、必死で応援して盛り上がりました。また、長く延期された遠足も無事に終えることができました。記念すべき百周年を在校生として迎えることができ、とてもいい経験でした。みんなが楽しみにしていた修学旅行も行けるかどうか分からない状態でした。それでも先生方の尽力のおかげで行き先を変更し、四国に行きました。みかん狩りに釣り、サイクリング、水族館。そしてなんと言っても盛り上がったのはレクリエーション。漫才やダンス。普段見ることができない友達の一面を見ることができました。当たり前だと思っていたことが当たり前ではなくなってしまうても、みんなで取り組む行事のおもしろさは以前と変わることはなく、むしろ以前よりも増してその喜びを噛み締めることができ、今でも鮮明に思い出せるほど最高の思い出となりました。

三年生になるころにはコロナ禍での生活にも慣れ、いよいよ部活動の締めくくりというところで感染が再拡大し、結局私たちの中には最後の大会や発表の場が無くなってしまった仲間もいます。「こんな形で終わらなければならないのか」というやるせなさを抱えながら、部活動を引退し、勉強を軸とした学校生活のなかでの行事の集大成として二年ぶりに文化祭に臨みました。なかなかクラスの出し物が決まらず、期日までの準備物や制作の作業の多さに悲鳴を上げながらも、最後までやりとげた達成感は想像以上でした。この他にも、水道の水が出なくなったり、校舎が爆発の危機に瀕したこともありましたが、それらすべてが昨日のこのように鮮やかに蘇ってきます。

この三年間の学校生活で、私たちは学問のみならず、多くの貴重なことを身につけることができました。こうした多くの経験を積み、充実した三年間をおくることができたのも、七十四期の仲間、先生方、先輩後輩、そして家族の支えがあったからこそだと思っています。

私たちの学校生活を支え、一人一人と正面から向き合い導いて下さった先生方の存在にはどれほど感謝してもしきれません。進路については親身になって相談に乗って下さったり、分からないことを丁寧に教えて下さったりと、授業だけでなく、日々の生活面などあらゆる場面でお世話になりました。今ここに先生がいたから、今の私たちががあります。厳しかった言葉も私たちのためを思っただったのだと今なら分かります。

その他にも、私たちの見えないところでの支えがあってこそ、この三年間不便なく勉強に部活動に思う存分力を注ぐことができたと思います。食堂のみなさん、事務室のみなさん、技師さん、その他私たちの学校生活に携わってくださったすべてのみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、一番身近で支えてくれた家族。お弁当を作ってくれたり、話を聞いてくれたり、いつも温かく見守ってくれてありがとうございました。部活や塾で帰りが遅くなっても嫌な顔一つせずに、いつも笑顔で迎えてくれました。思うように結果が出ず、焦りと不安でいっぱいだったときには背中も押してくれました。まだまだ教わることもたくさんあり、迷惑もかけるとは思いますが、これからは私たちも恩返しができるように頑張っていきたいと思っています。

また、在校生の皆さん、高校の三年間はあっという間です。今皆さんは部活や勉強に全力で取り組んでいると思います。思うようにいかず行き詰まることもあるでしょう。でも高校生というのは今しかありません。今できること、今しかできないことを思う存分楽しんで、後悔の無いよう「今」という時間を大切にしてください。

七十四期生の皆さん、三年間本当にいろんなことがありましたね。一緒に授業を受けたり、たわいもない話をしたり、テストの点数を競ったり、たくさんの時間を過ごしましたね。生野高校で、この学年で、皆さんと出会い、三年間を共に過ごし、今日卒業できることを心から嬉しく思います。朝学校に来て友達や先生と挨拶を交わし、昼休みになれば、食堂に行く人や勉強を始める人がいて、放課後になれば、部活動に励む人の声が聞こえる。そんな当たり前だった日々・存在が無くなってしまおうと思うと、とても寂しく思います。それでも私たちはこれからも進んで行かなくてはなりません。先の見えない時代が続くと思います。でも私たちがきっと大丈夫です。七十四期とい

う仲間がいます。この生野高校で学んだことと思い出を胸に次の新たなステージへ歩んでいきましょう。

最後に、これまで私たちを支えて下さった方々に改めて感謝を申し上げると共に、生野高校のますますの発展を祈念して答辞といたします。

令和四年三月一日

送辞

暖かな光に包まれ、白梅が満開を迎える今日の良き日に、新たな門出を迎えた七十四期生の先輩方、ご卒業おめでとうございました。

今、先輩方が目を閉じて、生野高校で過ごされた日々をゆっくりと振り返った時、思い出されるものは何でしょうか。学校行事、部活動、そして友達と過ごした何気ない時間、その全てがかけがえのないものであることと思います。

思い起こせば、私たちの前には常に先輩方の凛々しい姿がありました。

感染症対策の為、規模は縮小されましたが、昨年、一年ぶりに開催された文化祭。

先輩方は二年前に文化祭を経験されたこともあり、思い描いていたものとは異なるものであったと思われませんが、それでも最高に盛り上げようと模索しながら企画し、運営している姿に、私たち後輩も熱意を込めて参加しようと心を動かされました。何が起きても臨機応変に対応し、リーダーシップを発揮しながらも、先輩方自身が楽しみ、笑顔が輝くその姿は、私たちのお手本となりました。

文化祭を経験したことがなく、どのようなものか想像もつかない私たち後輩に、先輩方が経験された文化祭の話をしてくださいました。それはとても輝かしく、学校全体が一つとなって行事に参加する私たちが想像でき、よりたくさん活動が行える文化祭をしてみたいと思いました。

また、部活動での先輩方は、いつでも先頭に立って導いてくれる、とても頼れるリーダーであり、大きな目標でもありました。

先輩方も悩んだり迷ったりすることがたくさんあったと思われます。ですが、それを私たち後輩に見せることなく、いつでも優しく接してくれていた姿に憧れました。活動中には、部活動のことだけでなく、学校のことや勉強についてなど、いろいろな話をしてくださり、その中で、人間関係についてなど、たくさん大切なことを教えていただきました。先輩方が引退されてからは、部を運営していくことの難しさを痛感しました。「先輩ならこうしていたかな」と、頼れる先輩方を思い出し、前向きに頑張れたことを覚えています。また、いろいろと抱え込んで悩んでしまった私たちに、「もっと頼っていいねんで」と優しく声をかけて下さる先輩方は、私たち後輩の心の拠り所であり、とても大きな存在でした。先輩方に出会えて本当に良かったです。

新型コロナウイルスの影響で、困難な事が多かった高校生活であったと思われます。

学校行事や日常生活まで行動が制限され、辛く苦しいと感じることも沢山あったでしょう。

そのような状況の中でも、今できる事を考え、試行錯誤しながらも、生野高校での三年間を乗り越えてこられた先輩方は、とてもたくましく強い心を持っていると私たちは信じています。そんな先輩方と共に

過ごした時間は、とても大きなもので何物にも代えがたい大切な時間です。先輩方が困ったときには、先輩方から受け継いだ大きな心でいつでも助けに向かいます。先輩方は自信を持って、この先の未来へ羽ばたいて行って下さい。

そして、卒業された後も、少し一息つきたいときにはこの生野高校に立ち寄り、私たち在校生に会いに来てくださると嬉しいです。いつでも先輩方に迷わず帰ってきていただけるように、これからは私たちがこの場所を守り続けます。

本当に、ありがとうございました。

これが、私たち在校生の、先輩方にお伝えしたい心からの思いです。先輩方の新しい日々のご健康とご活躍をお祈りし、私たちの最後のご挨拶といたします。

令和四年三月一日

人と人が出会うという事。それ自体が奇跡の賜物であり、その奇跡の連続があなた達 74 期生をここまで導いてきた事を忘れてはならない。みんなと出会えた。それだけで十分価値のある高校生活であろう。いくら離れ離れになろうとも、その結ばれた確かな縁は決して解けることなく、未来永劫大切なものとなるはずです。

これから歩みだす新たな世界は、より壮大で輝かしいものであることを期待します。幾度の試練を乗り越え、さらに大きく成長した姿を見せに生野高校へ寄り道してもらえると嬉しい。

卒業おめでとう！ では、良い人生を！